

● 教室(診療科)の特色 ●

胃腸科(炎症性腸疾患含む)、肝胆膵科、化学療法科の三部門により構成され、良性・悪性・機能性を問わず、最新の薬物療法や最先端の内視鏡的治療も含め、消化器疾患の全般に非常にバランスよく精通するオールラウンドな診療科です。常勤医スタッフは42名(レジデント9名含む)で、多くは学会専門医の資格を有しており、各部門毎に専門的な最新の診療が行われています。病床としては84床を有し、一日平均の外来患者数149.5名、入院患者数59.1名、年間延べ入院患者総数は21,550名の実績があります(2021年1月から12月)。悪性腫瘍領域においては、早期癌・進行癌・末期癌、各々病態に対応した幅広い専門的な内科的治療(内視鏡治療・化学療法・緩和治療)が行われています。また、胆膵疾患については、他の施設では処置が困難な先進的な内視鏡治療の実績が豊富にあり、炎症性腸疾患も関西でトップクラスの患者数を抱え、常に最新知見に基づいた専門的治療を提供しています。



中村 志郎(なかむら しろう) 専門教授(科長)

■専門分野

炎症性腸疾患、下部消化管疾患、小腸疾患

■経歴

昭和61年3月 富山医科薬科大学(現 富山大学)医学部卒業

昭和61年5月 大阪市立大学第三内科入局、平成6年 同 助手、平成16年 同 講師

平成19年4月 兵庫医科大学内科学下部消化管科准教授、平成24年4月 同 教授

平成26年1月 兵庫医科大学炎症性腸疾患学講座内科教授

令和 2年4月 大阪医科大学内科学Ⅱ 専門教授(現 大阪医科薬科大学)

■主な所属学会

日本内科学会(認定内科医、指導医、評議員)、日本消化器病学会(指導医、専門医、評議員)、日本消化器内視鏡学会(指導医、専門医、評議員)、日本消化管学会(指導医)日本カプセル内視鏡学会(指導医)、日本炎症性腸疾患学会(理事)、日本小腸学会(理事)、アレルギー消化器研究会(世話人)厚生労働科学研究費 難治性疾患政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」治療指針改定プロジェクト統括責任者

■研究課題

炎症性腸疾患の病態解明と治療法の確立、小腸・大腸疾患の内視鏡診断と治療に関する研究

● 診療科の概要・特徴 ●

①胃腸科

スクリーニングや二次検診目的の内視鏡検査、EUSをはじめとする各種の精密内視鏡検査、吐血血に対する緊急内視鏡検査と止血術、低侵襲性の内視鏡治療など最新の内視鏡機器と技術を導入して、安全かつ積極的な診療を行っています。特に早期胃癌や表在型食道癌、大腸癌に対する内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)の症例数は全国有数です。消化性潰瘍や炎症性腸疾患に対する新しい治療法の導入にも積極的に取り組んでいます。当科オリジナルで開発し、先進的に行ってきた難治性逆流性食道炎に対する内視鏡的逆流防止粘膜切除術は、この度厚生労働省に認めてもらい、2022年4月より保険適用となりました。また、これまで診断が困難であり「暗黒大陸」とされていた小腸の病変に対して、カプセル内視鏡とダブルバルーン小腸内視鏡検査を共に施行できる体制を整えて、最先端の診療を行っています。そして、まだ開発段階ではありますが、カプセル内視鏡に自走能を付与した、自走式カプセル内視鏡の開発も行っております。低侵襲に全消化管を観察できるという目標のもと、新規医療機器の開発も積極的であることも特徴の一つです。

②肝胆膵科

ウィルス性肝炎や脂肪肝、その他の慢性管疾患に対して、肝硬変・肝癌への進展を防ぐよう診療を行っています。早期肝癌に対してはラジオ波焼灼療法(RFA)、マイクロ波焼灼療法(MWA)、経皮的エタノール注入療法(PEIT)等の局所療法を行っており、特にラジオ波焼灼療法の症例数は日本有数です。進行肝癌に対しては放射線科と連携した肝動脈化学塞栓療法(TACE)や、免疫チェックポイント阻害薬や分子標的薬を用いた全身化学療法、それらを組み合わせた集学的治療を行っています。一方、胆石・胆管炎・膵炎などに対しては、最新の画像診断をもとに、内視鏡的逆行性胆道膵管造影(ERCP)、内視鏡的乳頭括約筋切開術(EST)、胆道ドレナージ(ERBD、ENBD、PTCD、PTGBD)、胆管ステント留置などの内視鏡的診断・治療を中心に総合的な治療を行っています。胆道・膵腫瘍性病変に対しては、超音波内視鏡下穿刺吸引法(EUS-FNA)を施行して、病理組織学的確定診断を行っています。また、経乳頭処置困難な閉塞性黄疸・膵管閉塞に対しても、超音波内視鏡下ドレナージ術など、最先端の治療を、日本トップレベルの症例数に対して行っております。

③化学療法科

当科では、日本臨床腫瘍学会が認定するがん薬物療法専門医が中心となり、エビデンスに基づく標準的化学療法の提供のほか、企業治験や日本臨床腫瘍研究グループの実施する多施設共同研究に参加するなど治療開発にも力を入れています。がん薬物療法のマネジメントを専門にしていますが、がんの診断から治療に至る全ての過程に関わり、必要に応じて外科や放射線科と連携しながら集学的治療のマネジメントも行っています。また、がんに伴う、或いは治療に伴う身体的、精神的苦痛や社会的苦痛に対して、緩和ケアチームやがん相談支援センターに相談できる体制を整えており、患者のQOL向上のため活発な活動が行われています。一方、2019年6月には包括的がんゲノムプロファイル検査(CGP検査)が保険適応となり、個々の遺伝情報に基づく治療の最適化が可能になりました。当院は、がんゲノム医療連携病院の指定を受けており、京都大学医学部附属病院と連携し、CGP検査を含むがんゲノム医療も実践しており、常に最先端の検査、治療を提供できるよう努めています。

■ 連絡 先：大阪医科薬科大学内科学Ⅱ教室 TEL:072-683-1221

内線 2372(教授室)、2352(医局)、2472(研究室) / e-mail: ninaika@ompu.ac.jp

■ ホームページ: <http://www.osaka-med-ninaika.jp/index.html>

● 教室(診療科)指導医・上級医 ●

氏名(職掌)	専門医	研究課題等
福西新弥(特任教授)	総合内科専門医、消化器病専門医、消化器内視鏡専門医、肝臓専門医	肝疾患の診断と治療
後藤昌弘(特務教授)	がん薬物療法専門医、消化器病専門医、消化器内視鏡専門医	癌化学療法
竹内利寿(准教授)	消化器病専門医、消化器内視鏡専門医	上部消化管疾患の診断と治療
小倉 健(准教授)	総合内科専門医、消化器病専門医、消化器内視鏡専門医	胆膵疾患内視鏡治療
西川浩樹(准教授)	消化器病専門医、肝臓専門医	肝疾患の診断と治療
朝井 章(診療准教授)	総合内科専門医、消化器病専門医、肝臓専門医、超音波専門医、臨床遺伝専門医	肝疾患の診断と治療
宮崎孝子(特任講師)	総合内科専門医、消化器病専門医、消化器内視鏡専門医	炎症性腸疾患の診断と治療
柿本一城(講師)	消化器病専門医、消化器内視鏡専門医	下部消化管疾患の診断と治療
太田和寛(講師)	総合内科専門医、消化器病専門医、消化器内視鏡専門医	上部消化管疾患の診断と治療
島本福太郎(講師(准))	総合内科専門医、がん薬物療法専門医、消化器病専門医、消化器内視鏡専門医	癌化学療法
平田有基(講師(准))	消化器病専門医、消化器内視鏡専門医	下部消化管疾患の診断と治療
横濱圭介(講師(准))	総合内科専門医、消化器病専門医、肝臓専門医、消化器内視鏡専門医	肝疾患の診断と治療
浅石 健(講師(准))	総合内科専門医、消化器病専門医	緩和医療
山口敏史(講師(准))	総合内科専門医、がん薬物療法専門医、消化器病専門医	癌化学療法

初期臨床研修プログラムの特徴

1年目は24週間の内科研修の一貫として、消化器内科は選択性となっています。

2年目は選択研修として、選択期間に応じた研修システムとなっています。

研修内容と到達目標

<1年目>

消化器内科として消化管、胆膵、肝臓、化学療法各グループの何れか2グループを選択し、各グループに2～3名ずつ8週間(1グループ4週間×2)配属される。病棟患者は、指導医、主治医の指導の下で担当医として入院患者を担当する。なお、指導医は各疾患グループリーダー、主治医は助教、大学院生、レジデントが担う。4週目の末に医局長による面談があり、希望があれば次の4週目は当初の予定から変更が可能である。研修内容としては、必修研修であるが故に、病棟患者の基本的な処置、患者管理、処方、診療録記載、外来業務補助などである。検査は原則として見学までにとどめる。診療上の重要事項は必ず、指導医、主治医の指示を仰ぐことを原則とする。到達目標としては、専門的なレベルではなく、消化器内科領域のプライマリ・ケアとしての基本的事項の習得を目標とする。

<2年目>

選択する期間に応じた研修システムを構築している。単独で外来診療を担当することはできないが、外来・病棟処置の中心的役割を担い、病棟患者は消化器の各分野のほぼ全領域を担当することができる。また、上部消化管内視鏡検査と腹部超音波検査は通年で施行医として担当し、基本的な検査手技と診断能力に習熟することを到達目標とするが、選択期間が短期の場合は、入門から指導し検査手技と

診断技術の初歩を習得することを到達目標とする。さらに、週に1回、消化器内科の救急外来及び他科依頼の対応をレジデントと共に担当し、消化器救急のマネジメントについて習熟することを到達目標とする。その他選択期間によって研修内容は異なるが、概ね病棟患者では消化器の各分野の代表的な重要疾患を担当できる内容、あるいは1年目消化器内科の必修研修で研修できなかった領域について補完してもらう研修内容である。また、シュライバーとして消化器内科の専門外来で診療を担当し、外来患者のマネジメントについて学ぶことも可能である。



2020年9月 日本消化器内視鏡学会総会 医局員集合写真(会長:樋口和秀)

研修病院群

初期研修としては原則として大阪医科薬科大学病院消化器内科で研修を行い、関連病院での研修は行わない。ただし、研修2年目の地域医療の研修施設としては、当科関連の第一東和会病院、北摂総合病院が含まれる。

週間スケジュール

	午 前	午 後
月 曜 日	外来病棟業務、上部消化管内視鏡検査、腹部超音波検査	病棟業務、大腸内視鏡検査、腹部超音波検査、化学療法病棟回診・カンファレンス、EUS-FNA/ERCP
火 曜 日	外来病棟業務、上部消化管内視鏡検査、腹部血管造影検査、腹部超音波検査	病棟業務、大腸内視鏡検査、上部消化管内視鏡治療(ESD)、肝疾患経皮的検査(肝生検・RFA)、肝疾患カンファレンス
水 曜 日	外来病棟業務、注腸造影検査、腹部超音波検査	病棟業務、大腸内視鏡検査/治療(ESD)、EUS-FNA/ERCP
木 曜 日	入院退院報告、上部消化管内視鏡検査、ダブルバルーン内視鏡検査、腹部血管造影検査、腹部超音波検査、食道内圧検査	上部消化管内視鏡治療(ESD)、EUS-FNA、ダブルバルーン内視鏡検査、胆膵疾患カンファレンス、下部消化管病棟カンファレンス
金 曜 日	外来病棟業務、上部消化管内視鏡検査、腹部超音波検査	病棟業務、大腸内視鏡検査/治療(ESD)、EUS-FNA、上部消化管病棟カンファレンス
土 曜 日	外来病棟業務	

※カプセル内視鏡は月～金の毎日施行

評価方法

当院共通の研修評価表により、研修医の評価を行う。一方、当科のカリキュラムに対する研修医のアンケート調査も行い、その回答結果は今後の研修内容の改善に活用していく方針である。

後期研修(レジデント)プログラムの特徴

初期研修を終えて生涯の専門領域を消化器内科とするに当たって、消化器領域のいかなる分野の診療にも対応可能な臨床能力の育成を目標とします。女性医師の将来設計に応じた勤務も対応可能です。

研修プログラム

プログラム指導責任者:科長代行 中村 志郎

研修方法:

スムーズな内科専門医取得と、将来的な消化器領域の専門医取得のために、卒後3～5年目は当院を含めた日本内科学会認定制度教育関連病院(含、基幹病院)に勤務し、サブスペシャリティとして消化器内科の研修も同時に進めます。

当院の内科専門研修プログラムにおいては、現行の内科学会の方針に従い3年間のうち1年間は基幹施設である大阪医科薬科大学病院、1年間は大阪府下の連携施設、1年間は非シーリング地域の連携施設(兵庫県、滋賀県など)となります。例えば、卒後3、4年目で経験できなかった分野の専門内科について、卒後5年目に大阪医科薬科大学病院でローテーションすることも可能です。また、当院を連携施設とする非シーリング地域の基幹プログラムで2年間研修し、残り1年間を大阪医科薬科大学病院で研修することも可能です。内科学会の専攻医登録評価システム(J-OSLER)についても、十分な指導体制を整えています。

研修内容と到達目標

大阪医科薬科大学病院では、基本的に消化管、胆膵、肝臓、化学療法各グループをローテートし、消化器内科の各分野を専門的に研

修します。希望により他分野の専門内科を研修し症例を経験することも可能です。

外来に関しては、指導医の助言を受けながらも単独で外来診療を担当する。大学病院は高度医療機関であり専門的な疾患が多い。各領域のグリープリーダーの指導を受けながらも、入院患者は主治医として担当する。一方、初期研修医に対しては指導的立場を担う。

また、画像検査に関しては、上部消化管内視鏡検査、腹部超音波検査に加えて、大腸内視鏡検査、消化管造影検査、腹部血管造影検査や経カテーテル治療、超音波ガイド下穿刺術や治療、内視鏡的逆行性胆道膵管造影(ERCP)などの検査・治療の手技を経験して習得する。消化器癌化学療法についても全般的な経験を積み、緩和医療の基本についても習得する。

そして、示唆に富む症例については、学会に症例報告として自ら発表できるよう指導し、論文作成を推奨する。

以上の臨床経験や技術の習得、学会での症例報告は学会専門医の取得のために必要な条件であり、消化器系の学会専門医取得のための基盤を形成することを到達目標とする。

<4年目～5年目>

連携施設では、出向先の研修プログラムに準じ、消化器を含めた内科全般の研修を行います。消化器領域においても、学会指導施設として指導医が丁寧に指導します。

プログラムに参加する医療機関

大阪医科薬科大学病院／市立ひらかた病院／北摂総合病院／城山病院／阪和住吉総合病院／第一東和会病院／守口敬仁会病院／葛城病院／清恵会病院／大阪回生病院／みどりヶ丘病院／赤穂市民病院／姫路赤十字病院／宝塚市立病院／草津総合病院

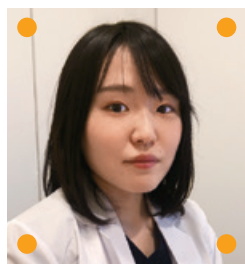
後期研修(レジデント)終了後の進路

大学院生(卒後3年目から随時)、大学での助教(准)や臨床研修専任指導医などの教員スタッフ、関連病院への就職、国内外への留学など個人の希望やライフスタイルに応じた将来設計の選択が可能である。



2021年2月 日本消化管学会学術集会 医局員集合写真(会長:樋口和秀)

先輩レジデントのコメント



杉島 涼音

平成31年卒

**扱う臓器が多く
手技バリエーションが豊富な
ところに魅力を感じ入局**

私は令和3年度より大阪医科薬科大学内科学Ⅱに入局させて頂きました。

鳥取大学医学部を卒業後、高槻市内の市中病院で初期研修を修了しました。初期研修後の進路については、扱う臓器が多くて手技のバリエーションが豊富な消化器内科に魅力を感じておりました。大阪医科薬科大学の見学の際に感じた消化器内科(内科学Ⅱ)の医局の良い雰囲気惹かれて入局することを決めました。実際に働いてみると、病棟業務のほか、救急や外来診療などと、初めて経験することばかりで困ってしまうこともありましたが、周りの先輩先生方は皆、相談しやすく丁寧に指導してもらえるので、働きやすさを実感しています。手技に関しても、内視鏡検査や超音波検査などの初歩

的なことから丁寧に教えていただけます。最近では緊急内視鏡での止血術も一人で完遂することができました。まだまだ経験不足で分からないことも多いですが、上級医の先生方のサポートのもと楽しく充実した日々を送らせていただいています。



西庵 克俊

平成29年卒

**消化管、肝臓、胆膵、化学療法の
4グループをローテートし
専門性の高い疾患を学べる**

私は大阪医科大学附属病院での2年間の初期研修後、一般内科医として市中

病院に勤務していました。一般内科医として働いていく中で、消化器疾患に触れる事が非常に多いことに気づき、専門とする臓器や疾患も幅広くカバーしている点に惹かれ、また内科でありながらも手技もしっかりとやりたいという気持ちが強くなり、医師5年目で消化器内科を専門にすることを決意しました。大阪医科薬科大学病院消化器内科は他大学出身者も多く、イレギュラーな時期の入局でも温かく迎え入れてくださる和気藹々とした雰囲気です。消化管、肝臓、胆膵、化学療法の4つのグループが一体となっています。まずはそれぞれをローテートして専門性の高い疾患を学ぶことができ、じっくりと自分の専門を決めることができるのも良い点だと思います。



大西 紗央莉

平成29年卒

**働き方に不安のある
女性医師にもお勧めできる
医局です**

私は平成29年に奈良県立医科大学を卒業し、市中病院での初期研修の後

に大阪医科薬科大学内科学Ⅱに入局させていただきました。入局後は市立ひらかた病院消化器内科で2年間研修し、その後は大学病院で勤務させていただいております。私は卒後3年目の終わりに妊娠が発覚し、4年目の秋に出産しました。子育てしながら仕事を続けていくことに不安を感じておりましたが、医局の優しい先生方に支えていただき、現在は時短勤務で専門医取得に向けて日々精進しております。時短勤務という限られた時間内で働いているにも関わらず学会発表や論文執筆などの機会もいただき、毎日充実した日々を送っています。当科は女性医師も非常に働きやすい環境です。子育てしながらバリバリ働いている医師や私のように時短勤務の医師もいます。ロールモデルとなる先輩の女性医師が多く、今後の自分の働き方に不安のある女性医師にもお勧めできる医局であると感じております。

取得できる学会認定医・専門医

日本内科学会、日本消化器病学会、日本消化器内視鏡学会
日本消化管学会、日本肝臓学会、日本超音波医学会
日本大腸肛門病学会、日本臨床腫瘍学会
日本カプセル内視鏡学会

関連病院

医局出身者の常勤医派遣病院（19病院）

市立ひらかた病院／北摂総合病院／城山病院／阪和住吉総合病院／第一東和会病院／第二東和会病院／守口敬任会病院／葛城病院／青山病院／大正病院／巽病院／洛西シミズ病院／国立がんセンター中央病院／清恵会病院／大阪回生病院／大阪医科薬科大学三島南病院／みどりヶ丘病院／愛知県がんセンター中央病院／蒼生病院



ボーリング大会



ゴルフコンペ

大学院における教育・研究活動

教育・研究指導方針

- ① 内科学、とくに消化器領域に関する高度の総合的知識・技術を習得させ、疾患の本質、病態の追求と把握に努める。
- ② 各人の個性を尊重し、オリジナリティーのある研究を重視する。臨床の場から問題点を掘り起こす視点をもたせ、臨床に還元できる内容の研究に努める。
- ③ 基礎医学的な生理・病態に関する研究にも努め、基礎医学部門、国内外の専門施設との共同研究も積極的に考える。
- ④ 大学院は卒後3年目から入学することが可能であり、レジデントとの兼任も可能である。
- ⑤ 女性医師の指導も人生設計に応じて対応可能である。

現在の研究テーマの概要

中村 志郎 専門教授

炎症性腸疾患に対する基礎的研究及び新規治療法の開発。大腸腫瘍に対する内視鏡診断と治療。

後藤 昌弘 特務教授(化学療法センター長)

食道癌に対する放射線化学療法。胃癌、大腸癌の化学療法。癌化学療法の臨床試験（第Ⅰ相～Ⅲ相試験）。緩和医療における臨床的研究。文部科学省「がんプロフェッショナル養成プラン」にも参画している。

福西 新弥 特任教授

肝疾患の病態と診断・治療に関する基礎的・臨床的研究。糖尿病と非アルコール性脂肪性肝疾患における基礎的研究とその臨床応用。自己免疫性肝疾患への漢方薬治療。

竹内 利寿 准教授(消化器内視鏡センター長)

上部消化管疾患の内視鏡診断および治療。逆流性食道炎・ヘリコバクターピロリ除菌療法・機能性胃腸症に対する臨床的研究。消化管疾患の病態解明に関する基礎的・臨床的研究。消化管疾患に関する新しい治療法の開発。消化器内視鏡に関する基礎的・臨床的研究（カプセル内視鏡など）。

小倉 健 准教授

胆膵疾患の病態解明と診断・治療に関する臨床的研究。急性胆道炎、重症急性膵炎の診断・治療。胆管癌、膵癌、膵管内乳頭粘液性腫瘍に対する超音波内視鏡を用いた診断・治療。内視鏡的採取材料を用いた分子生物学的研究。

国内留学先

国立がんセンター中央病院(腫瘍内科)／国立がんセンター東病院(臨床腫瘍病理部)／国立国際医療センター研究所(消化器疾患研究部)／愛知県がんセンター中央病院(消化器内科)

海外留学先

ハーバード大学／カルフォルニア大学／シカゴ大学／MDアンダーソンがんセンター／カロリンスカ医科大学／ニューヨーク大学

研究会

医局主催の研究会・勉強会は「OMPU Gastroenterology & Hepatology Research Group 講演会」と称し、約2カ月に1回開催されて学術活動も活発である。講演会後の懇親会でも情報意見交換が行われて相互の交流親睦が図られる。

同門会

医局同門会は「春洋会」と称し、総会員数は約500名である。年1回春洋会総会が開催され、参加者数は約100名の参加を得て開催される。



春洋会総会

学 会

毎年、米国消化器学会に25～30演題、発表しており発表数は8年連続日本一である。



アメリカ消化器病学会

入院患者症例数統計 (2021年1月～12月: 主病名として多い順)

【消化管・腹膜の疾患】

食道

食道癌(早期食道癌、表在型食道癌、進行食道癌、バレット食道腺癌 含む): 142
食道静脈瘤(食道胃静脈瘤 含む): 21
逆流性食道炎、胃食道逆流症: 6
食道粘膜下腫瘍: 1

胃

胃癌(早期胃癌、進行胃癌 含む): 147
胃潰瘍: 9
胃ポリープ: 6
胃腺腫: 6
GAVE(毛細血管拡張症 含む): 1

十二指腸

十二指腸癌: 11
十二指腸潰瘍: 1

小腸

小腸出血: 9
クローン病: 32
小腸炎: 2
小腸腫瘍(小腸GIST、小腸癌 含む): 5

結腸・大腸

大腸癌(早期大腸癌、進行大腸癌 含む): 103
大腸ポリープ(大腸腺腫 含む): 82
潰瘍性大腸炎: 46
感染性腸炎: 6
大腸憩室出血、大腸憩室炎: 18
直腸カルチノイド: 7

【肝・胆・膵の疾患】

肝

肝細胞癌: 3
肝硬変: 12
慢性肝炎: 1
肝性脳症: 3
急性肝炎: 3
自己免疫性肝炎: 1
原発性胆汁性胆管炎: 0

胆道

閉塞性黄疸: 98
総胆管結石: 84
胆管癌(乳頭部癌 含む): 24
胆嚢癌: 33

膵

膵癌(膵頭部癌、膵体部癌、膵尾部癌 含む): 79
膵腫瘍: 67
IPMN(IPMC、膵管内乳頭粘液性腫瘍 含む): 17
自己免疫性膵炎: 2
急性膵炎: 30
慢性膵炎: 70
膵胆管合流異常: 0